

入賞作品紹介

小学生の部親子賞 入選

伝える新聞

玉川 小6年
大竹 唯斗君

ぼくは、あまり新聞を
読みません。なぜなら、
字が小さくて漢字も多
く、むずかしいことがた
くさん書いてあるからで
す。たまに読むのはテレ
ビ番組表くらいです。

ある日、お母さんが真
剣に新聞を読んでいたの
で、ぼくは「お母さん、
何かおもしろい記事あっ
た？」と聞きました。お
母さんは、「みのわスキ
ー場がオープンしたんだ
って。玉川は雪が積もっ
ていないけれど、山には

ちゃんど雪が降っている
んだね」と言っています
た。お母さんが読んでい
た新聞に目をやると、そ
の記事の下には、玉川村
長選のことが書いてあり
ました。四月に玉川村の
村長を決める選挙がある
こと、今の村長が立候補
することなど、とてもく
わしく書いてありまし
た。お母さんから新聞
をかりて、めくって読ん
でみました。日本全国の
情報はもちろん、福島
県内の事件や事故、震

災後の復興など、県内の
ことがよく分かるように
細かく書かれていますし
た。

ぼくは今まで、新聞に
県内のことがこんなにく
わしく書かれていること
を知りませんでした。テ
レビのニュースで見た情
報が、テレビよりくわし
く書かれていることを初
めて知りました。「テレ
ビで見たニュースより、
たかさんの情報が書いて
あるね」とお母さんに言
うと、「文字で伝えるっ
てむずかしいんだよ。読
む人の気持ちをよく考え
て、伝えたいと思う新聞
社の人達の思いがたくさ
んつまっているんだよ
ね」とお母さんは言いま

した。

伝えたいと思う人の気
持ちはたくさんつまった
新聞。どんなことを伝え
たいのか、頭に思い描き
ながら、明日から新聞を
読んでみようと思う冬休
みでした。

読んでつながる

親子の輪と和

母 大竹 妙加子さん

新聞を読んでいた朝の
こと、珍しく息子が私に
声をかけてきた。私が目
にしてきた記事は、箕輪
スキー場が例年より二週
間ほど遅れてオープンし
たという記事。「最近ス
キー場に行っていない
な」と思ってたね。同じ県
内なのに、こんなに気候

が違うんだね」と息子に
話をした。ニュースでは、
今年エルニーニョ現象
の影響で暖冬になるだろ
うと言っていたというこ
とや、去年のスキーウエ
アはまだ着られるかとい
うことなど、一つの記事
から親子の会話が広がっ
ていった。「スキー場の

記事の下、玉川村って書
いてあるよ。ちょっと見
せて」。立て続けに息子
は口にし、私から新聞を
受け取ると村長選挙の記
事に見入っていた。

文章を読むこと、読め
ない漢字を調べたりする
ことがあまり得意ではな
い息子が、ふと目にした
記事に関心をもち、文字
を指で追いつながら読む
姿に少し驚いた。今までは
見られなかった姿を目に
し、息子の成長を感じた
時間でもあった。情報を
得るためだけのではない、
新聞の役割を知ったよう
に思う。

活字離れという言葉が
よく耳にするが、文字や
言葉は日常生活では欠か
せないコミュニケーション
ツールだ。自分の思い
や考えをより詳しく伝え
るには、言葉の引き出し
を増やすことが大切で、
そのために多くの文字や
言葉に触れさせたいと思
う。読むことが得意では
ない息子が、じつくりと
新聞に触れたのは親が読
んでいる姿と自分の住ん
でいる地域の見出しが目
に入っただけから。読みな
さいではなく、まずは自
分が読もう。そして子ど
もと一緒に読もう。読む
ことで広がる世界と、広
がる会話があることを感
じた。一つの記事から多
くのことを思い、知るこ
とができた冬休みだっ
た。

読む知る学が E! 新聞